

新任の先生からのメッセージ



Q1 本学着任前にされていたことは？
専門分野は？

苦節十年？紆余曲折？私立大学に専任として合計9年半勤めました。専門分野は学位の区分通り、言語文化学です。スペイン語の文化史（文法学史）を研究しています。狭義のlingüística言語学というよりはfilologia文献学に近い領域といえます。

Q2 本学でやりたいことは何ですか？

自然の観察日誌をつけるようにではなく伝記を書くような視点で、言語学を追究し教授することです。研究では広大無辺のデジタルアーカイブとどう向き合うかが問題です。夥しい史料を前に途方にくれるときにも、それにあたることを常に「始めるしかない」とブルクハルトは言っています。

Q3 大学時代はどのような学生でしたか？

言語への関心は一貫してありつつ、歴史、美術、文学、宗教、思想（公共哲学）にも、おおよその順で興味を持ちました。それでいつも古書店を巡っていました。

Q4 趣味・特技は何ですか？

本は、探して手に入れることも好きです。小説は年々億劫ですが、伝記系やヨーロッパの歴史系はまだ読めます。いちびっているみたいですが、コーヒー（スペイン式にはcortado）が好きです。

Q5 休日はどのように過ごしていますか？

子守に明け暮らし。午前中は喫茶店で読書します。メールなども含め人と関わらない時間にしています。

Q6 尊敬する人は誰ですか？

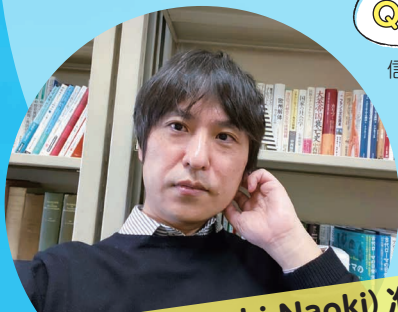
信念があり自身の言動に責任を持てる人なら、誰でも尊敬します。

Q7 座右の銘は何ですか？

Ubi bene ibi patria.「住みよいところこそ都（とせよ）」ヨーロッパの古層にある精神だと思います。現代的には曲解されてしまっていますが、置かれた境遇に甘んじず、自ら思考し自立・自律してより良い環境に身を置く努力をすべし、という風に解釈しています。

Q8 本学の学生へメッセージをお願いします。

「今」「ここ」「自分」でないものに目を向けてください。何事も、その起源と歴史を知ることが理解の助けになるでしょう。思考を拒否せず、logosを持って生きましょう。



安達 直樹 (Adachi Naoki) 准教授
イスパニア学科 イスパニア語学

Q1 本学着任前にされていたことは？
専門分野は？

日本学術振興会のポスドクの特別研究員として、東京外国語大学で八重山語の記述に動んでいました。大学院の修士課程では西表島、博士課程では石垣島でフィールドワークを行っていたのですが、最近はお小浜島という朝ドラの舞台になった島にも通い、各地のこぼれ話を話者の方々に習っています。

Q2 本学でやりたいことは何ですか？

兵庫県や瀬戸内海地域をはじめとしたフィールドワーク。近隣にいらっしやる研究仲間と…という目論見もありますが、学内の方々に関心がある方も一緒にぜひ。あと、良い話者の情報提供があればそれもぜひ。



占部 由子 (Urabe Yuko) 講師
総合文化グループ 日本語学

Q3 大学時代はどのような学生でしたか？

言語学を専攻しつつ、授業で色々な言語を習ったりしていました。あと、子供のころから星空や宇宙に興味があったので、天文学関係の授業に出たり、アルバイトで天体観測会のお手伝いをしていました。

Q4 趣味・特技は何ですか？

美術館・博物館の展示を見る、寺社仏閣や城などの建物を見る、喫茶店巡り、文具集めが好きみたいです。

Q5 休日はどのように過ごしていますか？

丸一日予定がない日は、だいたい散歩しつつ本屋さんに寄ってうろついています。でも、なにかある日も本屋さんがあれば行ってますね…。

Q6 尊敬する人は誰ですか？

実在の人物からは多くて選り抜くのが難しいですが、小説の人物だと山田詠美(作)『ぼくは勉強ができない』の主人公・時田秀美くんは、自分の視野を広げるきっかけとなった人で、尊敬しています。

Q7 座右の銘は何ですか？

ないです。みなさん、座右の銘っていつ決めるんでしょうか…。

Q8 本学の学生へメッセージをお願いします。

専門知識を極めるのも良いですが、自分と違う専門の人が何をどう考えているのか、物事をどの様に見ているのかを知れるのも、学生生活の良い点だと思います。人と接したり本を読んだりしながら、視野を広げてください。

